

道路政策の質の向上に資する技術研究開発 平成18年度 中間評価について（概要）

- 1．目的
 - 2．中間評価の対象
 - 3．中間評価の視点及び基準
 - 4．提出書類及び期限
 - 5．中間評価の体制
 - 6．中間評価の手順
 - 7．評価結果の通知及び公表
- 別紙 1 評価分科会委員（案）
- 別紙 2 研究評価会 議事次第（案）

1. 目的

中間評価は、新道路技術会議において採択され、実施されている研究課題について、研究課題の適切な実施を図るとともに、次年度以降の研究費の適正化に資することを目的。

2. 中間評価の対象

複数年度にまたがる研究課題を対象とし、最終年度を除く毎年度、評価。

3. 中間評価の視点及び基準

(1) 中間評価の視点

(1 - 1) 1年目の研究課題を対象とした中間評価の視点

中間段階での成果を評価するのではなく、研究の見通しや進捗の評価を目的とする。

中間評価の視点は次のとおりとし、4段階（A～D）で評価する。

中間評価の視点	説明
研究の見通し	研究の目的・目標を効率的かつ計画通り達成するため、研究計画、実施方法、体制が適切となっているか。
研究の進捗状況	研究の目的・目標を計画通り達成するため、研究は適切に進捗しているか。

評点	説明
A	適切である / 順調である
B	概ね適切である / 概ね順調である
C	やや適切でない / やや順調でない
D	適切でない / 順調でない

(1 - 2) 2年目の研究課題を対象とした中間評価の視点

研究の進捗に伴い、研究成果の見通しの評価に重点を置く。

(特に1年目の評価結果が芳しくなかった研究については、慎重に評価を行う。)

中間評価の視点は次のとおりとし、4段階(A～D)で評価する。

中間評価の視点	説明
研究の進捗状況	研究の目的・目標を計画通り達成するため、1年目の評価結果を踏まえ、研究は適切に進捗しているか。
研究成果の見通し	当初計画通りの研究成果が期待できるか(研究の進展により、独創的、画期的な研究成果が期待できるか)。また、研究成果の活用方針が明確になっているか。

評点	説明
A	順調である/ 大いに期待できる
B	概ね順調である/ ある程度期待できる
C	やや順調でない/ あまり期待できない
D	順調でない/ 期待できない

(2) 中間評価の基準

中間評価の視点ごとの評価を踏まえ、研究継続の妥当性について4段階(A～D)で総合的に評価。

評点	区分	説明
A	計画通り継続	当初計画は順調に実施され、現行の努力を継続することによって目標達成が可能と評価される。
B	計画通り継続 (指摘事項有り)	当初目標を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意し、一層の努力が必要と判断される。
C	計画を修正の上 継続	このままでは当初目標を達成することは難しいと思われるので、評価者からの指摘事項に沿って、当初計画の適切なる変更が必要と判断される。
D	中止	現在までの進捗状況に鑑み、今後の努力を待っても当初計画の達成は困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

[参考] 中間評価シート(1年目の研究課題対象(左)、2年目の研究課題対象(右))

【様式1】 - 1

中間評価シート(1)(1年目の研究課題対象)

評価分科会委員	
---------	--

番号	研究課題名	研究代表者

1. 中間評価の結果

中間評価の視点	評点	意見
研究の見通し	A 適切である	
	B 概ね適切である	
	C やや適切でない	
	D 適切でない	
研究の進捗状況	A 順調である	
	B 概ね順調である	
	C やや順調でない	
	D 順調でない	

研究継続の妥当性評価	意見
A 計画通り継続	
B 計画通り継続(指摘事項有り)	
C 計画を修正の上継続	
D 中止	

2. 特記事項
(計画の修正を要する場合の修正内容、今後の研究計画・方法への指摘事項等。)

【様式1】 - 2

中間評価シート(2)(2年目の研究課題対象)

評価分科会委員	
---------	--

番号	研究課題名	研究代表者

1. 中間評価の結果

中間評価の視点	評点	意見
研究の進捗状況	A 順調である	
	B 概ね順調である	
	C やや順調でない	
	D 順調でない	
研究成果の見通し	A 大いに期待できる	
	B ある程度期待できる	
	C あまり期待できない	
	D 期待できない	

研究継続の妥当性評価	意見
A 計画通り継続	
B 計画通り継続(指摘事項有り)	
C 計画を修正の上継続	
D 中止	

2. 特記事項
(計画の修正を要する場合の修正内容、今後の研究計画・方法への指摘事項等。)

4. 提出書類及び期限

(1) 提出書類

各研究課題の研究代表者は、以下の書類を提出。

「研究状況報告書」

「研究開発年次計画・経費に関する調書」

(2) 提出期限

平成19年1月31日(水)(必着)

【研究状況報告書の記入項目・内容】

記入項目	1年目の研究課題	2年目の研究課題
研究代表者	氏名、所属、役職	
研究テーマ	名称、政策領域、公募タイプ	
研究経費	各年度の委託額/計画額	
研究者氏名	研究代表者以外の主な研究者氏名、所属、役職	
研究の目的・目標	提案書に記載した研究の目的・目標	
これまでの研究経過	研究の進捗状況	
	研究計画、実施方法、体制の妥当性	
研究成果の発表状況		国際会議、学会等の発表状況
研究成果の活用方策		研究成果の活用方法・手段等
特記事項	研究の見通し・進捗の自己評価等	研究成果の見通しの自己評価等
研究遂行上の問題点等	問題点及びその解決方法、見通し、要望等	
	公表を控える必要がある研究成果(公開前の特許等)	
次年度以降の研究計画	H19年度(以降)の研究計画・方法	
	～ は非公表	

5. 中間評価の体制

評価対象課題(11課題)をソフト及びハード分野に区分し、2つの分科会を設置(P.6(別紙1)参照)。

各分科会は、新道路技術会議委員(6名程度)、行政官(1名)、研究官(1名)で構成。

各分科会の分科会長は、新道路技術会議委員の中から選出。

評価分科会委員(案)

別紙 1

分科会	課題NO.	領域	タイプ	採択年度	委託研究テーマ	委託先	研究代表者	評価分科会	
								分科会長	委員
ソフト分科会	1			H17	社会心理学に基づくコミュニケーション型TDMに関する研究開発	東京工業大学	東京工業大学大学院 教授 藤井 聡	家田委員	赤羽委員 井堀委員 太田委員 川嶋(弘)委員 佐々木委員 中越委員 吉川委員 道路経済調査室 道路計画調査官 国総研道路研究官
	1			H17	市民参画型道路計画体系の提案と道路網計画における対話技術の開発	財団法人 計量計画研究所	東京工業大学大学院 教授 屋井 鉄雄		
	2			H17	道路機能に対応した性能目標照査型道路計画・設計手法論の研究開発	名古屋大学	名古屋大学大学院 助教授 中村 英樹		
	5			H17	集客地の活性化に資する、道路のホスピタリティ表現手法についての研究開発	東京大学	東京大学 アジア生物資源研究センター 教授 堀 繁		
	1			H18	道路の整備・維持管理費用、環境費用を考慮した受益者負担の仕組みに関する研究	一橋大学	一橋大学大学院 教授 根本 敏則		
	2			H18	駐車デポジット制度による受容性と柔軟性の高い都心部自動車流入マネジメント施策の研究と実証	名古屋大学	名古屋大学大学院 教授 森川 高行		
ハード分科会	4			H17	道路機能に基づく道路盛土の経済的な耐震強化・補強技術に関する研究開発	大阪大学	大阪大学大学院 教授 常田 賢一	三木委員長 代理	小澤委員 川島(一)委員 柴崎委員 吉田委員 国道・防災課 企画専門官 国総研道路研究官
	6			H17	市民参加型交通安全対策・評価システムの実用化に関する研究	社団法人 国土政策研究会	日本大学 教授 高田 邦道		
	8			H17	ASR劣化構造物安全性能評価手法の開発	京都大学	京都大学大学院 教授 宮川 豊章		
	8			H17	多機能検査車走行による道路構造物の健全性評価	京都大学	京都大学大学院 教授 杉浦 邦征		
	7			H18	センサーネットワークを利用した次世代斜面防災システムの構築	立命館大学	立命館大学 防災システム研究センター 副センター長 深川 良一		

H17の評価分科会の構成を参考に作成。網掛け部分は1年目(H18採択)の研究課題を示す。

6. 中間評価の手順

中間評価の手順は、次のとおり。

書類の事前査読 (2月上中旬)

- ・分科会各委員は、研究代表者の提出書類の記載内容について、事前査読を実施。
- ・特記事項（委員からの指摘等）がある場合は、研究代表者へ事前に連絡。

研究評価会の開催 (2月下旬)

- ・各分科会は研究評価会を開催（P. 8（別紙2）参照）。
- ・分科会各委員は中間評価シートを作成。
- ・中間評価シートを基に、中間評価（案）を作成するための審議を実施。

中間評価（案）の作成 (3月中旬)

研究評価会后、分科会長は中間評価（案）を作成。

中間評価の決定 (3月下旬)

新道路技術会議において中間評価（案）を審議し、合議により中間評価を決定。

7. 評価結果の通知及び公表

中間評価結果は研究代表者に書面にて通知し、道路局ホームページ等において研究状況報告書と併せて公表（3月下旬）。なお、中間評価の経過は非公開とし、評価結果等の公表にあたっては、特許権等の知的財産権の保護に配慮するものとする。また、評価の過程で知ることのできた情報を他に漏らしてはならない。

研究評価会 ソフト分科会 議事次第(案)

日時：平成18年2月下旬
13:00～17:00

場所：

1. 開 会
2. 挨拶、実施方法の説明(13:00～13:10)

ハード分科会については、研究課題数が5課題となるため、16:30頃の閉会を予定。

3. 研究報告(1課題あたり30分)
 - 1) 研究課題1(13:10～13:40)
 - 2) 研究課題2(13:40～14:10)
 - 3) 研究課題3(14:10～14:40)
 - 4) 研究課題4(14:40～15:10)
 - 5) 研究課題5(15:10～15:40)
 - 6) 研究課題6(15:40～16:10)

15分発表(パワーポイント使用予定)
15分質疑応答等(評価・準備含む)

～休 憩 (10分)～

4. 中間評価の実施(16:20～17:00)
 - 1) 研究継続の妥当性評価について
 - 2) 中間評価(案)のとりまとめについて 等

5. 閉 会